

協立なないろだより

2022年10月 NO.4

新居浜協立病院

医療福祉相談室発行

多職種協働で 「口から食べる」を支える

食べ物を認知して口に運び、噛んで飲み込むまでの流れを「せつしょくえんげ摂食嚥下」とよびます。当院では、この「摂食嚥下」に問題のある方に対し、医師・ST（言語聴覚士）の評価をもとに、「できるだけ安全に口から食べる」ことができるよう、「食べるリハビリ」に多職種協働で取り組んでいます。



入院時

「食事をするときむせる、うまく飲み込めない、うまく噛めないなど」の症状がある方



STが「口の体操」
実施中

食べる機能を評価

【ST】口の中の衛生状態、声や発音、食事の様子を観察

【医師・ST】必要時、嚥下内視鏡や造影検査（飲み込みの検査）を行い、より詳しく評価



安全に食べるためのリハビリ

【ST・看護師】

- リハビリ（口のケア、口の体操、会話等）で食べるための機能を高める
- 食べる機能に合わせ、食事の姿勢や食事形態、食べ方を設定
- 食事を安全に食べられるようサポート



看護師が口腔ケア実施中

※現在はコロナ感染対策上、口腔ケアや食事介助時等はフェイスシールドやエプロン等使用して実施中

自宅で 飲み込み検査

Aさんはミキサー食を横になった姿勢で口から食べられるようになり退院。(介助)
退院後も順調「もう少し形のある物が食べたい。座って食べられないか」と本人や家族からの希望があると相談を受けた。

医師と ST が自宅を訪問して内視鏡の検査！



自宅で検査中の
山上医師

検査で食べ物のがのどを通っていく様子をご家族や関係事業所の方にも一緒に見てもらう。

【今後の方針を共有】

「ミキサー食なら座って食べられそう。
形のあるものは横になった姿勢で練習」

■今では少し形のある物を座って
自分で食べられるようになった。

摂食嚥下委員会

医師、看護師、介護士、ST、OT（作業療法士）、管理栄養士、事務職員が月1回集まります。

嚥下に問題のある患者様の情報共有や安全な食事支援の知識・技術の向上の為の取り組みを実施。



医師も参加

多職種協働で

「食べにくい物、好き嫌い
はありませんか？」



栄養士



介護士

残された機能を活かしつつ介助

「口から食べる」 胃ろう・人生の 最期でも

- 人生の最終段階でも、無理のない範囲で安全に「食べる」を支援
- 胃ろうや中心静脈栄養の方でも「口から食べる」を目指してリハビリ実施

安全安楽な食事姿勢に整える練習中



ST



安全な食事支援について学習中